

# 新社長登場

New President



藤澤鋼板

## 藤澤 丈氏

昨年12月に創業75周年を迎えた老舗の独立系コ

るためにも「今の時代に合った経営」にシフトし、

るシャリリングが同1000トの計7000ト。

環境下でも成長を目指す。近年は酸洗鋼板の加工を増やすとともに、めっき鋼板の加工にも対応するなど、板厚6mmまで加工できるレベラーの特長を最大限に生かしている。CCが「鉄の一次加工として不可欠な機能」であることを訴求して加工賃是正も図る。

従業員数は39人、ベストスチールが9人で、グループ全体では48人となる。

市場環境については内需の伸びが見込めず、主戦場

数年前から採用にも力を入れ、自ら地元の高校を訪問し、インターンシップの受け入れも始めた。その成果が上がり、人手不足が深刻化する中でも新卒採用を継続できている。今春も新卒者2人が入社する。

### 小回り利く商社に

イルセクター(CC)の三代目社長に就任。伊藤忠丸紅鉄鋼での勤務を経て10年前に家業に戻り、経営の一翼を担ってきたが、トップとしての重責を背負うにあたり、「今までとは異なる重みを感じる」。積み重ねてきた歴史と支えてくれた社員を守

改革を進めていきたい」と決意を新たにしている。同社は祖父の藤澤滋氏が創業。浦安鉄鋼団地への進出第1号企業として知られる。直近の加工量はレベラーが月間4000ト、スリッターが同2000ト、関連会社のベストスチールで手掛け

である店売り市場も一層の縮小が進むと想定。生き残るためには「コイルセクター力の強化が欠かせない」。取扱量拡大や収益力向上に向け、人材育成を推進するとともに提案力に磨きをかけて「小回りの利く商社のような機能」を発揮し、厳しい

「今の若い人たちにものつくりの魅力を訴えてもなかなか響かない。やはり待遇改善が重要で、それを実行するためにはコイルセクターや鉄鋼流通が利益を上げられる業種にならないといけない」と冷静に分析。「鉄鋼業界全体が魅力あるものになっていかなければ、個社の力だけでは難しい面もある」として、他社や団体とも連携しながら活気ある業界にしていく方針を練っていきたい考えだ。(音成 泰文)